

測 定 する 能 力	
論理的言語力	論理的読解力A
論理的読解力B	論理的読解力B
論理的思考力	論理的思考力
論理的表現力	論理的表現力

日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえたり、「ことばのつながり」、指示語・接続語などを論理的に扱う力。

文章を論理的に読む力。趣旨を的確に把握する力。小説などを客観的に読む力。

文章構造を論理的に解説する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。

文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。

他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

問題Ⅰ

論理的言語力

第一問

■解答 (各4点)

- (1) エ (2) ア

■解説

- (1) 「自由とは」↓「ある」、「自分で」↓「持つ」、「責任を」↓「持つ」、「持つ」↓「能力の」↓「ことば」↓「ある」。
- (2) 「雨」↓「上がりの」↓「朝」↓「かかった」、「空には」↓「かかった」、「見事な」↓「虹」が「↓」かかった。

第二問

■解答 (6点)

■解説

「あふれて」いるのが何かを考えると、「匂い」。

第三問

■解答 (6点)

■解説

「景色が」↓「見える」が主語と述語。直後の「ちよūdōのぞきめがねを見るように」は「見える」をかざる言葉。

第四問

■解答 (各2点 完全解答)

- (1) F ウ (2) C イ (3) G エ
(4) B カ (5) E ア

■解説

- (1) 添加のしかも・さらに・そのうえなど。
(2) 因果のだから・したがって・それゆえなど。
(3) 選択のそれとも・または・あるいはなど。
(4) 逆接のしかし・けれども・だがなど。
(5) 理由のなぜなら。

第五問

■解答 (各2点)

- (1) カ (2) ウ (3) イ (4) エ (5) オ

■解説

- (1) 「主権は」を「主権を」に変えなければならぬ。

問題Ⅱ

論理的読解力A

第一問

■解答 (6点)

■解説 夜、寝ている鳥を弓矢で射ること。

■解説

本文中から推測。直後の「木立ち木立ちを、手に弓矢を持って見回る」から考える。

第二問

■解答 (完全解答 8点)

- (1) ウ (2) イ (3) エ (4) ア

■解説

直前の「出来ない」を受けて、ウの「その出来ないことがしたい」。次に、逆接の「だが」に着目して、「しよにここを逃げ出しては駄目なの」と続く。それを受けて、「お前一人で逃げなくては」。最後は順接の「そして」に着目。「筑紫の方へ行って」を受けて、直後の「それから佐渡へ」と続く。

第三問

■解答 (各4点)

■解説 筑紫 佐渡

■解説

「父母は恋しゅうても佐渡は遠い。筑紫はそれよりまた遠い」という二郎の言葉から判断する。

第四問

■解答 (6点)

■解説 地藏

■解説

直後に守袋から仏像を出していることから、

仏像のことを言っており、そのしばらく後に地藏尊の額を見たのである、その仏像は、「お地藏様」であることが分かる。

第五問

■解答 (各6点)

- ア エ

■解説

二郎が「父母は恋しゅうても佐渡は遠い。筑紫はそれよりまた遠い。子どもの行かれる所ではない。父母に会いたいなら、大きゅうなる日を待つがよい」と言っている、アが正しい。

安寿と厨子王は同じ夢を見て、夢から覚めた後、「守本尊を取り出して、夢で据えたと同じように、枕もとに据えた」とあるので、エも正しい。

問題Ⅲ

論理的思考力

第一問

■解答 (各3点)

- (1) 私は まるで (2) まるで そばに

■解説

- (1) 知識偏重の入学試験を改めなければならない。
(2) 彼の優しい言葉が見えない励ましとなった。

第二問

■解答 (各4点)

- (1) ことがわかった(他にも解答例あり)
(2) 読み(他にも解答例あり)

■解説

- (1) 「調査の結果から」に対応する「わかった」を補う。
(2) 「本を」の後の述語を補う。

第三問

■解答 (6点)

評論は論理的に書かれた文章だから、論理的に読まなければならない。

■解説

「ので」「から」「ため」と、理由を表す言葉を使ったかどうか。

第四問

■解答 (6点)

私の愛読書は、何度読んでも感動する(感動を与えてくれる)夏目漱石の「こころ」である。

■解説

「①に文の中に」という条件なので、②の文を「こころ」を説明する文に変形する。

第五問

■解答 (6点)

恋愛をしたなら、恋人をありのままに見なくなる。

■解説

「人は恋愛すると恋人をありのままに見ることをしなくなる」が筆者の主張で、アントニイとクレオパトラはその具体例にすぎない。

第六問

■解答 (8点)

言葉は顔に似て、人の内面など映像では表現できないことを表現できる。

■解説

筆者の主張は「言葉は映像では表現できないことを表現する」で、「日本一の美女」はその具体例にすぎない。字数条件から、「顔に似ている」「内面を表す」を入れて一文にする。

問題IV

論理的読解力B

第一問

■解答 (6点)

(A↓) E↓C↓B↓D

■解説

各段落の要点を読み取る。Eは、「さえずり」と鳴き声の違いで、Aの内容を受けている。Cは、鳥の喉や脳の構造が「さえずり」を可能にしていること。それを受けて、Bは鳥の喉の構造、Dは鳥の脳の構造を、順次具体的に説明している。

第二問

■解答 (各2点)

(a) ウ (b) オ (c) イ

■解説

(a) 直前のカラスと、直後のウグイスやカナリア、ジュウシマツとが対比になっている。
(b) 消去法で選択肢を絞り込む。「実際」↓「出し」という「言葉のつながり」を考える。
(c) 話題の転換。

第三問

■解答 (各2点)

(1) ア (2) オ (3) イ (4) エ (5) ク

■解説

(1) ヒトと対比されている。
(2) 直後に「左右の膜のそれぞれに脳から舌下神経が分布している」とある。
(3) 二つの神経が一つだけになってしまうことから分かる。
(4) イヌやネコが言葉を話さない理由。

(5) 「さえずり」との対比。「さえずり」が繁殖

期に発するのに対して、「鳴き声」は季節と関係がない。

第四問

■解答 (6点)

「鳴き声」↓「さえずり」

■解説

Aに「鳴き声」と呼ばれる」とあるが、カラスが鳴き声であるのに対して、ウグイスなどは「さえずり」。

第五問

■解答 (12点)

「さえずり」は長く続く複雑な音声で、オスが繁殖期に発するのに対し、「鳴き声」は短く単純な音声で、オスもメスも季節に関係なく発する。

■解説

Eの冒頭に「さえずり」と鳴き声との違いを説明しよう」とあるから、その後の説明箇所をまとめる。

問題V

論理的表現力

第一問

■解答 (5点)

卸業・小売業

■解説

三業種を比べると、「卸業・小売業」のグラフが一番変化が少ない。

第二問

■解答 (5点)

平成二十二年

■解説

縦の目盛りが一〇〇であるのは平成二十二年。

第三問

■解答 (5点)

減少している

■解説

調査した産業全体をあらわしているグラフは、「調査産業合計」であり、そのグラフを見ると一〇〇より少ないことが分かる。

第四問

■解答 (5点)

情報通信業

■解説

グラフから「情報通信業」が上昇し続けていることが分かる。

第五問

■解答 (5点)

卸業・小売業

■解説

平成二十三年時点のグラフを見ると、「卸業・小売業」が一番下にある。

第六問

■解答 (15点)

グラフを見ると、卸業・小売業の賃金が横ばいから、平成二十三年には減少している一方、情報通信業の賃金が断続的に上昇していることが分かる。これは購買者が小売店などから買うよりも、インターネットを通して注文するケースが増え、しかも、情報通信業では優秀な人材を確保しようとしたからではないのかと推測できる。

■解説

二つの事実を利用して答えること。「情報通信業」の賃金が増えているが、事実①により、インターネットによる直接販売が盛んになったことによると分かる。では、直接販売が盛んになったなら、なぜ賃金が増えたかというと、事実②により、優秀な人材を確保するために高い報酬を支払ったことが分かる。